

## 一般質問



武 辺  
議 員

一、鷹島モンゴル村の現状と再生支援事業について  
二、子ども読書活動推進計画の策定について

## 質問

一、(1)平成21年度から24年度までの来場者数をお知らせください。  
(2)合併後、市が支援した金額は総額幾らですか。  
(3)今後の集客数増加の可能性とその具体的な案は持っていますか。  
(4)投資に見合う集客の可能性が見えない中、モンゴル村を市の観光の核と位置付ける根拠は何ですか。  
(5)支援計画が来年で終わりますが、その後はどうされますか。  
二、(1)県内で学校司書を配置していないのは松浦市だけですが、この現状をどう考えていますか。  
(2)図書館資料運搬回収事業の実績、稼働状況、各学校の反応をお知らせください。継続すべき事業だと思いますが、来年度以降についてはどう考えていますか。  
(3)図書館協議会、図書館指定管理者制度導入検討会は開催されましたか。  
(4)図書館の現状を見ると、市民にとっては民間に任せただ方がよりよい運営ができるのではと思ってしまいますが、考えをお聞かせ下さい。また、図書購入費についての対応等もお聞かせ下さい。

## 答弁

一、(1)21年度が59万8千人、22年度が9万2千人、23年度が6万4千人、24年度が6万2千人です。  
(2)合併後8年間で、指定管理料を含めた合計額は2億8千600万円です。  
(3)歴史、サイの化石、水中考古学を統合的な宿泊学習として、県内外の児童や生徒を取り込む仕掛けができないか考えております。  
(4)観光客数は鷹島町が市内の半数以上を占めています。また、元寇と水中考古学、サイの化石発掘など歴史的なものにもモンゴル村は可能性を秘めており、観光の核としての役割を果たすものと認識しています。  
(5)モンゴル村は今後も継続します。  
二、(1)読書支援員の配置については、前向きに努力いたします。  
(2)事業開始から今年8月までで4万3千冊を貸し出し、市内全小中学校を1週間に1度回っています。学校からは高評価を得ており、継続できるように検討していきます。  
(3)どちらもまだ開催していません。  
(4)教育委員会が一体となって運営を行っていきたいと思います。また、図書購入費の予算化も行います。

## 一般質問



白 石  
議 員

一、高齢化社会におけるまちづくりについて  
二、少子化対策について

## 質問

一、(1)高齢化が進み、人生65年時代から90年時代を前提として全世代参画による超高齢化社会の実現を目指す必要がある、と政府の高齢社会対策会議で提議されている。本市の高齢化率はどうなっているのか。  
(2)人口の3割を超す高齢者施策の主体的担当部署はどこか。  
(3)健康寿命を延ばすことができるように支援する高齢者対策専門部署を独立させてはどうか。  
(4)高齢者の生きがい対策の一環としてシルバー人材センターを活用してはどうか。また、補助金額が年々減少しているがその理由は何か。  
(5)趣味活動を通して健康寿命を延ばすためにも、グラウンドの整備や陰切りなど行政の支援をお願いしたいがどうか。  
二、(1)本市の少子化の現況はどうか。  
(2)少子化解消のため、子どもを増やす対策課が必要だと思うがどうか。  
(3)少子化に対する施策と高齢化対策は、市民の知恵や経験を結集し、行政と一緒に暮らしやすいまちづくりを行う努力が不可欠であると思うが、市長の考えは。

## 答弁

一、(1)8月末現在で30・8%です。  
(2)主に福祉事務所と健康ほけん課が、関係課と連携して対応しています。  
(3)高齢者施策は多岐に渡り専門的知識を要するため、保健、医療、福祉が連携して取り組む方がサービスの向上と充実につながると考えます。  
(4)重要性を認識し、就業の場の確保への支援をしたい。補助金の減額は国の基準の変更に基づくもので、過去3カ年の会員数の平均値と就業延べ人数により算定しています。  
(5)直接的な支援ができない場合は、種々の取り組みの中で協力をし、協力できることは積極的に要望に応えるようにしています。  
二、(1)0歳から14歳の人口は7月末現在3千165人で、人口に占める割合は12・8%です。  
(2)子育て支援、母子保健、独身男女の出会いのサポート、ひとり親世帯に対する支援などを各課で実施し、少子化対策を進めています。  
(3)総合力を結集し対策を進め、市民が安心して住み続けられるまちづくりに取り組みたいと思います。